

令和 6 年 6 月 2 日現在

機関番号：32404

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13082

研究課題名（和文）日本語学習者が複数の文章を読む過程における読解技術の解明

研究課題名（英文）A Study of Reading Skills in the Process of Reading Multiple Texts of Japanese Learners.

研究代表者

田川 麻央（TAGAWA, Mao）

明海大学・外国語学部・講師

研究者番号：50735363

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は日本語学習者が日常生活でどのようなトピックのテキストを読んでいるか、複数のテキストを読む過程と理解の特徴は何か、教育的介入によって複数テキストの学習が深まるかを明らかにすることである。調査の結果、外国語環境の学習者よりも第二言語環境の学習者は生活・学習に関わる素材を中心に読んでいること、学習環境にかかわらず能動的に複数テキストを読んでいることがわかった。また、中級学習者はテキスト間を関係づけていく余裕が読む過程ではあまりなく、読後課題を行う際に情報を整理し、再構成していることが明らかとなった。要約作成を目的に複数テキストを読むことで読みの理解が深まった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、日本語学習者が日常生活でどのようなトピックのテキストを読んでいるか、複数のテキストを読む過程と理解の特徴は何か、教育的介入によって複数テキストの学習が深まるかについて明らかにすることができた。これらの研究で得られた知見は、『日本語学習者の実生活における複数テキスト読みの実態』『複数テキストを読む過程と要約作成 - 中級日本語学習者を対象に』『要約活動が日本語学習者の複数テキスト理解に及ぼす影響』という論文にまとめ発表できたことから、日本語教育の現場で読解を指導する実践者の一助になったと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The objective of this study was to ascertain the types of texts learners of Japanese read in their daily lives, the characteristics of the reading and comprehension process, and the impact of educational intervention on the learning of multiple texts. The findings revealed that learners in second language environments engaged in more reading than those in foreign language environments, focusing on material related to their daily lives and learning. Additionally, they demonstrated active reading of multiple texts, irrespective of their learning environment. Additionally, it was observed that intermediate learners lacked the opportunity to establish connections between texts during the reading process. Instead, they engaged in the organization and reconstruction of information when performing post-reading tasks. The act of reading multiple texts with the intention of creating a summary proved to be an effective method for enhancing their reading comprehension.

研究分野：日本語教育

キーワード：複数テキスト 日本語学習者 読解

## 1. 研究開始当初の背景

近年、日本の高等教育へ進学する日本語学習者がますます増えている。高等教育へ進学すると、第二言語としての日本語能力が発展途上であっても、議論を構成したりレポートを書いたりするなど問題を解決するために、同じトピックを持つ日本語で書かれた複数のテキストを読み、理解を深めることが求められる。

これまで第二言語としての日本語読解教育では、複数のテキストの内容を関連付けて読むために必要な具体的な読解技術を指導するような教育は、試験対策を除いてあまり行われてこなかったといえる。読解技術の研究のほとんどが単一のテキストを読むためのものに焦点が当てられてきたからだと思われる。そこで、日本語学習者が日本語による複数のテキストを読むことについて研究する必要があると考えた。実際に日常生活で読む必要性があるのか、複数のテキストを読む際にどのような読解技術を使っているのか、うまく読めない場合は何が難しいのか、どのような教育的介入をすれば読みが促進されるのかという複数のテキストの理解に影響する要因を明らかにする必要がある。これらを明らかにすることで、実用性を重視する読解教育への実現に近づくことができると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究では日本語学習者が読む複数のテキストの素材と、読む過程及び理解に焦点を当てて調査・分析を行う。

(1)日常生活でどのようなトピックのテキストを読んでいるか。

(2)複数のテキストを読む過程と理解の特徴は何か。

(3)教育的介入によって複数のテキストの学習が深まるか。

以上の(1)から(3)を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究では目的の(1)について明らかにするために、国内と国外(中国)の大学に所属する大学生、大学院生を対象に、普段の生活において日本語で書かれた二つ以上の読み物を読み比べることはあるかどうか、ある場合は読むことの難しさは何かについてアンケート調査を行った。加えて、具体的にどのような素材を読んでいるのかを明らかにするためにテキストを提出してもらい整理した。

次に、目的の(2)を明らかにするために、複数のテキストを読む過程で考えていることを学習者に話してもらい、その発話を分析した。さらに、読後に書いてもらった要約文を分析した。

続いて目的の(3)は、要約文を作成することを目的とした要約作成活動条件と意見を述べることを目的とした意見生成活動条件を中級学習者に割り当て、育児休業に関する新聞への投書記事2点を読んでもらい、論点の把握、テキスト間、テキストと情報源の関係の把握への影響を明らかにした。

## 4. 研究成果

### (1)日常生活における複数テキストの読みの実態

第二言語(JSL)環境と外国語(JFL)環境の中級以上の学習者を対象にアンケート調査を実施した。学習者は実用性のある素材を読んでおり、特にJFL環境よりJSL環境のほうが生活、学習に関わる素材を読んでいることが多いことが示された。また、ゲームの解説や商品のレビューなど読解教育であまり扱わないような素材も積極的に読んでいることが明らかとなった。また、複数のテキストを読むことの難しさについてテキスト間のロジック、内容整理、各テキストの視点の把握、批判的思考の側面に困難を抱えていることが示された。以上より学習者は日常の生活で能動的に複数テキストを読んでいることが明らかとなった。

### (2) 複数のテキストを読む過程と理解の特徴

学習者が複数のテキスト間のつながりをどう把握しているのか、何に注目して読んでいるかなど読む過程の実態を明らかにするために、中級学習者5名を対象に、時系列の4つの新聞記事を読む過程を読みながら産出してもらった発話をもとに分析した。その結果、それぞれのテキストの要点を含む発話が見られた。既に読んだテキストの情報を今読んでいるテキストの理解のために積極的に利用する発話は多くないものの、疑問を呈したりそれまで読んだ内容をまとめたりするなど読解技術を使っていることが示された。しかし、読みながらテキスト間の関係に着目した発話をする余裕があまりないことが明らかとなった。

テキストを読んだあと、記憶に残っている情報を整理することができれば、複数のテキストを関係づけて理解することができると予測されることから、読後に要約文を作成する課題を実施し、分析を行った。各テキストの視点を理解していた学習者は、要点を把握できていた。また、作成した要約文の構成は提示されたテキストの順ではなく自分なりに再構成していた。一方、各

テキストの視点の理解に問題があった学習者は情報の重要性を判断することが難しく、作成した要約文も複数のテキストの一部に偏っていることが示された。このことから各テキストの視点を把握すること、単一のテキストを超えてテキスト間の情報をいかに整理するかが理解に影響を及ぼすことが明らかとなった。

### (3) 複数テキスト読みへの教育的介入

意見生成よりも要約作成を目的に複数テキストを読むことによって、論点の把握が促された。また、複数のテキストに登場する人物とその人物の意見を関係づけて把握すること(テキスト間の関係付け)、登場人物とテキストの情報源を把握することが促進された。中級の日本語学習者への教育的介入として要約作成活動を行なうことを目標に複数テキストを読むことは理解に効果的であることが示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 田川麻央	4. 巻 26
2. 論文標題 複数テキストを読む過程と要約作成 - 中級日本語学習者を対象に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 応用言語学研究	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田川麻央	4. 巻 48
2. 論文標題 読解ストラテジーを中心とした日本語学習支援における生徒の学び	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 親和國文	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田川麻央	4. 巻 34
2. 論文標題 要約活動が日本語学習者の複数テキスト理解に及ぼす影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明海大学外国語学部論集	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 田川麻央・方穎琳	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 日本語学習者の実生活における複数テキスト読みの実態	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 94-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19022/jlem.27.1_94	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田川麻央・方穎琳
2. 発表標題 日本語学習者の実生活における複数テキスト読みの実態
3. 学会等名 第56回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 齋藤明子、田川麻央、森田亮子、小谷野美穂	4. 発行年 2022年
2. 出版社 スリーエーネットワーク	5. 総ページ数 187
3. 書名 J L P T 文法 N 3 ポイント & プラクティス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	方 穎琳  (FANG Ying Lin)	中南大学	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
中国	中南大学		